

# マツシマさんの哲学。

英語の授業、その前に――

Q. どうして学校に行かなくちゃいけないの？  
Q. どうして勉強しなくちゃいけないの？  
Q. どうしていい成績をとらなきゃいけないの？

学校は「勉強するための場所」ですが、本当は「同じ経験を共有する**友達をつくるための場所**」です。学校があなたに何かをしてくれるわけではありません。**自分が学校に対し、仲間に対し、何ができるのか**。そこを考えて実行することで、自分の通う学校が「いい学校」になるのです。

では、勉強にはどんな意味があるのでしょうか。大人はよく「将来役に立つ」と言いますが、小学校で勉強してきたことや中学校で勉強することは、実際にはどんな場面で役に立つのでしょうか。結論から言ってしまうと、**人それぞれ**です。わりとすぐ役に立つこともあれば、何十年も経ってからようやく役に立つこともあります。学校で勉強する内容は、そのときのための**下地づくり**、つまり「**訓練**」でしかありません。でも、それぞれの教科では**大切なことを訓練**しています。

**国語**：他人の考え・気持ちを理解できる想像力  
**数学**：物事の正しい順序を見抜く論理的思考力  
**英語**：異なるルールに合わせることができる柔軟性（& 細かいところに気を配る力）  
**理科・社会**：自然と自然、自然と人間、人間と人間、それぞれの関係性を知ること  
**体育・音楽・美術・技術・家庭**：人生を豊かにする

ここまで書けば、どうしていい成績をとらないといけないのかがわかるでしょう。いい成績をとるということは、上で挙げた力を持った**魅力ある大人になるための訓練ができて**いる、ということです。だから、みなさんには**勉強を通して魅力的な人間に育ってほしい**、と思っています。

## ■授業の理念

日本の学校はすでに平安時代には存在していたようです。もちろん当時の学習内容は現在のものとは大きく違いますが、中国の文化を取り入れていたため、中国語が重要なものとなっていました。つまり、今でいう「**漢文**」が**教養として勉強**されていました。その後、武士の時代になっても漢文は教養として学ばれ続けます。やがて鎖国が終わると西洋の文化が一気に入ってきて、新たに外国語として英語が学ばれるようになりました。漢文が東洋の教養として学ばれたのに替わり、**英語が西洋の教養として学ばれるようになった**、と言えるかもしれません（『吾輩は猫である』で有名な夏目漱石は漢文の専門家でしたが、英語の先生として活躍した時期があります）。

英語はコミュニケーションの道具でもありますが、それ以上に「**外国の持つ教養に触れる入口**」でもあります。かつて教養として漢文が学ばれ、他者の文化への理解を深めることで日本文化を豊かにしてきたように、**教養としての英語の授業を通してみなさんの視野を広げる**、そういう時間にしたいと思います。それは大げさな目標だとしても、日本語とまったく異なるルールの英語を学ぶことで、**自分と異なるルールに合わせる柔軟性を伸ばす機会にしたい**、そう考えています。

## ■単語の学習

英語に限らず、単語を並べることで言語はある程度通じます。単語は言語におけるいちばんの基礎、というわけです。スポーツでたとえるなら、**単語を覚えることは筋トレにあたります**。筋肉を鍛えなければいいプレーはできません。

しかし、単語を覚えることは大変です。似たような単語はあるし、発音はわかりづらいし、なにより量が多いので面倒くさいでしょう。覚える作業が得意な人もいれば、苦手な人もいます。単語については苦手な人の方が圧倒的に多いので、「**自分だけが苦手だ**」と思わず、**あきらめずに取り組み続けることが大切**です。ある程度覚えると、覚え方のコツがつかめて作業が速くなってきます。

単語を覚えるときは、**実際にしゃべって発音をしながらかいたり、授業で使った場面を思い出しながらかいたりする**のがよいでしょう。単語は「つづり」「発音」「意味」の3つを覚える必要があるので、セットで一気に覚えましょう。複数の意味を持つ単語は、「**守備範囲**」で覚えてください。この意味からこの意味までがこの単語の守備範囲だ、という具合に「意味の広さ」を意識しましょう。

## ■熟語の学習

単語と並んで重要なのが熟語の学習です。熟語とは、「単語がいくつか集まって決まった意味を持ったもの」です。つまり、**熟語には「お約束」の意味がある**のです。熟語をどれだけ多く知っているかは、特に高校以降に重要になります。私立高校の受験問題では熟語を直接聞いてくることがありますし、大学受験でも長文の中の熟語を見抜けるかどうか力が握ることがあります。熟語を知っているかどうかは、**どれくらい真剣に英語の勉強に取り組んでいるかの目安**になっています。

熟語は例文を通して覚えるのが有効です。**自分の身近な人や物を主人公にして例文をつくり、丸ごと覚えてしましましょう**。熟語は単語と違って複数の意味を持つことはほとんどないので、慣れてくればかえって覚えやすいと感じるかもしれません。

## ■辞書について

**辞書は暇なときに読むもの**です。調べたいときに使うだけ、ではもったいないくらい、ものすごいエネルギーをかけてつくられています。一度、辞書をつくるのにどれだけの労力がかかるのか、想像してみてください。そうしてあらためて辞書を手にとると、その価値がわかるはずですよ。

慣れてくると電子辞書よりも本の辞書の方が早く引けます。というより、**本の方で早く引けるようになるまで勉強して使い込まなければいけません**。アルファベットの順番を当たり前のようにして、ペンを持つ利き手とは逆の手で2秒かからずに目的の単語を探せるようになるまで勉強しましょう。電子辞書がおすすめできない理由はもうひとつ、目的の単語の近くにある単語を勉強できないという点です。せっかく辞書を引いたのですから、**まわりの単語も読んでついでに覚えましょう**。

辞書の役割は単語の意味を調べるだけではありません。**例文が載っていますから、それも確認しておきましょう**。中学生には少し難しいですが、英英辞典は最高の例文集です。シンプルながらも力強い説明と例文は、英作文のすばらしい参考になるはずですよ。

## ■英検について

リスニングや文法など、さまざまな種類の問題を体験できるので**英検は有用**です。ふだんリスニング問題に触れることのない人は、英検の勉強を通して慣れておくのがお手軽です。中1で5級、中2で4級、中3で3級が標準的なペースですが、やたらと上の級を狙う勉強よりも、それぞれの級で**どれくらいの正解率を取れるのか**、という形で勉強する方が意外と効果的です。英検はしょせん、マークシートで6割とればよい試験にすぎないので、**資格として絶対視する必要はありません**。

## ■文法の学習

英語の授業では、毎回テーマが設定されます。このテーマをしっかりと意識して、「**今日は最低でも何ができるようになるればよいのか**」を押さえるようにしましょう。よくあるのが、板書をノートに写すだけで満足してしまうことです。でもその内容は先生の頭の中にあるもので、あなたの頭の中にもコピーできていないと意味がありません。**ノートを家で見て、その日の授業を思い出すクセをつけましょう**。先生から習ったことを同じようにほかの人に説明できるのが理想です。

習った文法は問題集やワークで確認することになります。その際、授業でとったノートの内容を見ながら問題を解くとよいでしょう。英語の文法問題は、英語というスポーツのルールを確認するようなものです。**どういうときにどういう変化が起きるのか、自分なりに整理しましょう**。なお、間違えた場合には、どのような間違い方をしたのかも確認しましょう。今回の授業で習った部分を間違えたのか、前に習ったことをうっかり間違えたのか、同じ間違いを繰り返してしまったのか……。自分の間違いの傾向を知ることが、弱点の克服につながります。

ワークなどのマルつけは自分でやりましょう。自分で自分のミスに気づくことはとても大切です。**慎重すぎるぐらいにいいにやらないと、正確なマルつけはできません**。マルつけを通して物事にいい取り組み力をつけましょう。**間違っただ箇所は消しゴムで消さず、別の色のペンでチェックしましょう**。後で読み返して、自分がどのような間違いをしやすいのかがわかります。

## ■読解の楽しさ

長い英文を読むのは大変ですが、とても楽しいことです。読んだ分だけ知識が広がります。逆に、自分の趣味や特技が英文の話題に出て意外と読めた、なんてこともあるかもしれません。英語の楽しさはいろいろありますが、**文章を通してさまざまな話題に触れることで、学校での勉強がどんどんつながる体験ができます**。そういう意味で、**英語はあらゆる教科とつながる核になります**。

英文を読むのが苦手な人は、主語(○○は・○○が)と動詞(述語、××だ・××した)に注目し、**だれが何をしたのか、結論を押さえましょう**。単語を覚えていけば、意味をつなげることで場面を想像できるようになります。もっと慣れると、単語を見ただけで頭の中の映像が動き出します。

英語はパーツ(部品)で考えるのが有効です。**文をつくっているパーツを見抜いて、その組み合わせで読んでいきます**。教科書にはその練習になる文がいっぱい詰まっています。例文として覚えておいて、今度は自分が英作文などでパーツごとに組み立てていけるようにしましょう。江戸時代には勉強として漢文を音読していました。同じように**英語をたくさん音読して、書いて覚えて、パターンを覚えこんでしまうと、いざというときに正しい英語がパツと出てくる**ようになります。

## ■テストについて

テストというとすぐに「イヤだな」と反応する人が多いのですが、むしろチャンスだと思ってください。**テストもコミュニケーションです。「自分はこれだけわかっているんだ!」と先生たちにアピールする場です**。ていねいな字できちんと答えれば、気持ちが先生たちに伝わるはずです。

テストにはさまざまな問題が出ますが、ただ解くだけでなく、自分の得意なタイプの問題や苦手なタイプの問題を自覚することが大切です。得意な問題を通して自信につなげ、苦手な問題を通して自分がどのようなことを聞かれるのに弱いのかを理解することは、のちのち勉強以外の場面でも役立つはずです。自分がどう答えたいのかよりも、**どのような答え(答え方)が求められているかを考えることが重要**ですし、そこを考えることで相手のルールに合わせる力がつきます。

テストの問題は、究極的には**和文英訳問題(英作文)ができれば大丈夫**です。この問題が解ければ、和訳だろうと読解だろうと文法だろうと、ほかの問題もぜんぶできるはずです。並べ替え問題は和文英訳問題の一手手前にあたるので、非常に重要です。英語が苦手な人はまず、**並べ替え問題で「なんとなく正しい順番がわかる」という状態を目指しましょう**。

## ■受験について

高校受験は大きく分けて都立入試と私立入試ということになります。

都立の問題はとにかく長文がらみとなるので、**速く読む力を意識して事前にたくさん英文を読み込む訓練をしておく**必要があります(自校作成だとなおさらです)。リスニングも大量の英語を聞くので、惑わされることなく質問をきちんと聞いて、正しい受け答えができるように、特に疑問詞を練習しておきましょう。英作文ではある程度のパターンが決まっているので、英語が本当に苦手な人は、あらかじめ答えのモデルを用意しておくのも有効かもしれません。

私立の問題では文法の知識を問う傾向が強まります。つまり、**きちんと時間をかけて英語を勉強しているかどうか**が問われます。また、その学校に合わせた対策を練っているか、つまりその学校に合わせる気があるか、を見る問題も出題されます。

都立・私立を問わず、**過去問は何度も解いて特徴をつかんでおきましょう**。最初のうちは制限時間をオーバーしても構わないので、時間がかかってもすべての問題を解きましょう。同じ問題を何度もやっているうちに早くできるようになりますが、それはその学校の出題傾向に慣れた、ということです。似た難度の学校の問題も解いて、対応できる問題の幅を広げておきましょう。**問題を数多く解いた経験が、自信へとつながっていきます**。

## ■中学校英語の極意

英語が得意な人もいれば、苦手な人もいます。全体的な傾向として、学校の英語が得意な人は「**自分と異なるルールに合わせる柔軟性**」「**条件から答えを見つけ出す推理力**」に優れていると感じます。そして苦手な人は、その訓練が十分にされていないということです。**英語の授業はこれらの力をきたえる訓練だ**、と割り切った方がいいかもしれません。言語は人間にとって最も重要な要素のひとつですから、ふだん慣れているのと違う言語でやっていくのは非常に難しいことです。でもだからこそ、**日本語という絶対的なルールを基準にしないでやっていける柔軟性の訓練**、そう思って英語の学習をポジティブにとらえてほしいと思います。

英語は各学年で週に4時間あります。これはすべての教科の中で最も多いのですが、比率にすると**1週間全体のうちのわずか2.4%弱しかない**、ということになります(ちなみに睡眠が33%を占めています)。夏休みなどを入れればもっと比率は下がりそうです。これだけの時間で英語がしゃべれるようになるわけがありませんし、慣れることすら大変です。だから**授業は全力で受けてください**。出された宿題もきちんとやってください。毎日少しずつやって習慣にすることが大事です。そして、やるときには**集中して取り組んでください**。つねに考えながら勉強すること、**授業を思い出しながら課題をやる**ことで、2.4%を最高に充実した時間にできるはずです。

でも、英語の成績はすぐに上がるものではありません。まず「センスの悪い間違い」からスタートし、「センスのいい間違い」へ移行して、その後ようやく「正解」にたどり着くので、できるようになるまでどうしても時間がかかります。焦らず半年から1年、あるいはそれ以上、**毎日じっくりと取り組めば、ある日突然、英語のコツをつかめる日が来ます**。

「英語のコツ」とは、つづり・発音・文の表現すべてにおいて「**英語らしさ**」をつかむことです。「こっちの方が英語っぽいな」という感覚がわかるようになれば、英語が得意科目となるはずです。みなさんが間違っただ日本語を気持ち悪く感じるように、**間違っただ英語を気持ち悪く感じるようになるまで勉強をすれば**、おのずと結果はついてきます。大変ですけど、がんばりましょう。